



School Management Review

よくある不祥事の話

「教員が生徒の個人情報保存したUSBを紛失」

新聞やテレビでこのようなニュースを見聞きすることが多いように感じます。統計を取ったわけではないので実際の発生頻度や件数はわかりませんが、万が一このような事態が発生すると、生徒や保護者はもちろん、多くの方々からの学校に対する信用が失墜しかねませんので、絶対にあってはいけないことです。

そもそも、なぜ個人情報を保存したUSBを紛失してしまうのかということですが、紛失した場所が学校外である場合は、おそらく持ち帰り残業が恒常的に発生しているということに尽きるのではないのでしょうか。昨今、教員の長時間労働が大きな問題となっていますが、持ち帰り残業が発生すると、個人情報漏洩のリスクも常につきまとうということが言えそうです。

ある調査によると、教員がUSBメモリを紛失する原因として、学校現場においては、外部アクセス制限、インストール制限、メール添付制限は十分に運用されているにも関わらず、USB等外部記憶媒体の使用制限、外部記憶媒体への書出制限については運用が不十分(ルールがあってないようなもの)である場合が多いと指摘されています。

つまり、情報セキュリティに関するルールはしっかりと整備されており、インターネット上での利用制限はしっかりと守られているにも関わらず、USB等の外部記憶媒体の取り扱いについては守られていないようです。ただし、持ち帰り残業が恒常化しているという背景を考えると、ルールは知っているけれども、やむに已まねずルールを犯してしまっているケースが多いようにも感じます。

情報セキュリティに関するルールの整備と運用に全く問題がない場合はいいのですが、少しでも不備に心当たりがある場合には、情報漏洩等のリスクが顕在化する前にしっかりと体制を整備することが求められます。ただし、どれだけ完璧なルールを作ったところで誰も守らなければ意味がありません。

この問題の抜本的な解消を図るためには、個人情報を保存した外部記憶媒体を学校外へ絶対に持ち出さないこと、つまり、持ち帰り残業を撲滅する以外に有効な手段はないのではないのでしょうか。自校の状況をしっかりと把握していただいた上で、適切な措置を講じる必要がありますね。

(弊社ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」2017年1月25日付記事を改編し掲載しています)

1

1 **School Management Review**
よくある不祥事の話

3 **学校経営トピックス**

弥生
March

3

2-3 **《連載》事業計画を作ろう!**
第12回 つくった事業計画を「共有」するために
～「他人の口」を活用する～

4 **会費のコツをひとつまみ**
『Good & New』をやってみよう

2017

第12回 つくった事業計画を「共有」するために ～「他人の口」を活用する～

いよいよ本連載も最終回。前回採り上げた収支計画をもって、「魂のこもった事業計画」は完成です。御校の計画は思った通りに仕上がったでしょうか。

このたびの連載をひとつずつたどっていただくことで、なりたい姿になるための、かつ達成可能な事業計画を策定することができます。ここで全12回のタイトルをふりかえっておきましょう。

【連載目次】

- 第1回 なぜ事業計画が必要なのか
- 第2回 事業計画の種類と役割
- 第3回 事業計画策定スケジュール
- 第4回 理念をすえる～建学の精神の現在化～
- 第5回 「あるべき姿」から「なすべきこと」を導く
- 第6回 主観的に現状分析する（SWOT分析）
- 第7回 課題を抽出する～目標と現状のギャップ～
- 第8回 募集・広報計画をつくる
- 第9回 組織計画をつくる～組織と人事のちがいを～
- 第10回 投資計画をつくる
- 第11回 収支計画をつくる
- 第12回 つくった事業計画を「共有」するために～「他人の口」を活用する～

計画づくりを「前年踏襲」や「数字合わせ」だと考えれば、数週間もあれば完成させられることでしょう。しかしながら、将来を見据えたシナリオや中長期のグランドデザインをつくるためには、数カ月から丸一年、場合によっては数年をかけて仕上げていくこととなります。決して楽な道のりではありませんが、なりたい姿になるためには、それがどんな姿なのかを明確にすることが必須であり、そのための最適ツールがこの事業計画なのです。連載の初回にお伝えした通り、自宅の近所を延々散歩していても富士山の頂には永遠にたどり着けません。目標を明示し、組織全体でそちらに向かっていくことが、なりたい学校になるための最良の方法と言えるでしょう。

…と、さらっと書かせていただきましたが、計画策定後の最重要ポイントともいえるのがこの「組織全体で目標に向かう」という点です。学校においてはある意味において役割分担が明確すぎることで、組織全体で何かをするということが不得手なケースが少なくありません。特に、新たなことを始める際には足並みがそろわないことも多いのではないのでしょうか。せっかく策定した事業計画ですので、組織全体で共有し、目標を意識しながら毎日の行動で実践したいところですが、実際、策定した事業計画を「共有化」するのは、策定そのものよりも骨が折れる、という話もよく耳にします。「ただでさえ忙しいのに、新しいことなどできっこない」といった抵抗感もあるでしょうし、「管理職の言うことなど聞きたくない」という感情論？も大きな影響を与えることがあります。

そこでご活用いただきたいのが「他人の口」です。ここでいう他人とは、組織内部のメンバーではない人を指しています。つまり、第三者に事業計画の重要性を説いてもらうことで、共通認識を作りやすくしよう、ということです。

事業計画を作る際に外部専門家を活用する大きなメリットとして、当然のことながら策定そのものをスムーズに進めることが挙げられます。学校の先生



方が教育のプロフェッショナルであるのと同じく、経営にもプロフェッショナルが存在します。そして、経営のプロの中でも事業計画の策定経験が多いプロはそのポイントを把握しつつ全体のスケジューリングを行い、より良い着地点を模索してくれることでしょう。そしてもうひとつ、外部専門家の大きなメリットが「客観性の担保」です。組織外部からの視点を持つことで、管理職や教職員に偏りがちな視点が是正されやすくなります。さらには、客観的な立場から事業計画や目標設定の重要性などが語られると、ある程度素直にそのことが受け入れられるものです。ぜひこのようなメリットを生かして、事業計画の共有を図っていただきたいと思います。

ここ数年、私学にとっての経営環境は厳しさを増しています。そしてこの先も、この状況が大きく改善することは期待できそうにありません。難しい舵取りが必要になる私学経営を、「成行」に任せるのではなく「なりた姿」に近づく経営にするために、ぜひとも魂のこもった事業計画を策定してください。御校の輝かしい未来を心より祈念して、本連載の締めくくりとさせていただきます。

学校経営トピックス ～1月掲載ブログより～

- 2017. 1. 10 公立学校教職員の人事行政状況調査より
- 2017. 1. 11 「学校事故対応に関する指針」に基づく適切な事故対応の推進について
- 2017. 1. 19 学校保健統計調査-平成28年度（速報）の結果の概要
- 2017. 1. 20 教員の長時間労働問題
- 2017. 1. 30 出前授業でいじめ撲滅

学校経営ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」 <http://ysconsult.hatenablog.com/>

会議のコツをひとつつまみ



理事会、評議員会、各種の委員会、部会、そして職員会議…

ミーティングや打ち合わせなども含めると、人が集って話し合うことは日常茶飯事です。

そんな会議にちょこっと工夫を加えてみませんか。ほんの少しの隠し味が、生まれる成果を豊かにしてくれますよ。

『Good & New』をやってみよう

ある企業における営業会議の開始直後の風景です。

「いつものように成果の発表から始めるぞ」「先月もノルマが達成できませんでした」「お前はなんでいつもそうなんだ？理由を言ってみろ」…

こういう雰囲気になってしまうと一気に会議は重苦しくなります。かといって、会議で楽しい話題ばかりを扱う、というのも考えにくいものです。むしろ、会議ではシビアな意見が飛び交う方が本来的、というふうには言えなくもありません。

会議の冒頭の雰囲気というのは、その後の空気を支配してしまうことが多く、先ほどの例のようにいったん重くなった空気を払拭するのはそう簡単ではありません。つまり、会議が始まった直後にしっかり雰囲気づくりをすることは思う以上に大切なものなのです。ただ、その雰囲気づくりのために多くの時間を割くわけにもいきません。会議時間を適正に管理することもまた、参加意欲を維持するために重要だからです。

そこでご紹介したいのが「Good&New」です。これはいわゆる「アイスブレイク」で、雰囲気作りのためのグループワークと言ってもいいでしょう。やり方はいたって簡単。その名の通り、「良かったこと」あるいは「新たな気付き・発見」を周囲に向けて発表する。そしてそれを聴いた人が拍手する。これを繰り返すだけです。順番を決めて1人1つずつ発表してもいいですし、指名された人が次々に発表する形でも構いません。5人程度のグループで3～5分程度実施するだけで、その場の雰囲気は一気に明るくなります。

なぜ雰囲気が良くなるのか。理由は単純、その場に「いい話」しか出てこないから、です。嫌な話を聞くとしゃべっている方も聞いている方も気持ちが萎えてしまいますが、いい話はその逆で、話し手・聴き手ともに楽しく嬉しい気分になるものなのです。会議を始める際の3分程度をGood&Newの時間にしてみませんか。会議の中身まで前向きになれるかもしれませんよ。

本紙連載「会議のコツをひとつつまみ」も今回が年度末の最終回。あれこれとご紹介してきましたが、ひとつでも試してみてくださいれば、会議が活性化することを実感されることでしょう。会議改善、ひいては組織改善のお役に立てれば嬉しく思います。



学校経営のことなら…



未来へつなぐ、夢がある。

株式会社ワイズコンサルティング/ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: info@ysmc.co.jp

URL: <http://www.ysmc.co.jp>(会社) <http://www.ystax.jp>(事務所)

Facebook[®]-ジ: <https://www.facebook.com/ysconsult>